

乳児健診の場における妊娠中の嗜好品調査成績

有馬正高 神経センター疾病研究第二部
田中晴美 神経センター疾病研究第二部
工藤英昭 神経センター疾病研究第二部

目的および対象

一般の妊婦が、アルコール類、煙草、コーヒー、日本茶をどの程度摂取しているかを回顧的に調査した。調査の場所は都内の保健所における乳児健診であり、保健婦のききとりによった。低体重児については別に調査され、今回の集計は主として正常出生体重児の健康乳児の母親に対して行なわれたものを集計した。

成績

全般的な成績は表1に示した通りである。

喫煙は8.5%、酒類を飲用したもののうち嗜好的に飲用したものが11.4%、コーヒーほぼ連日飲用者43.6%、日本茶ほぼ連日飲用者67.0%という成績であった。

低体重児に占める割合は今回の成績では不十分であるが知り得た範囲では、喫煙者が出生児体重2499グラム以下の42例中7例17%にあり、2500

グラム以上の1472例122例8.3%よりも5%の危険率で高率であった。この傾向は従来の報告に一致しているので喫煙が胎児の成長を抑制する傾向をもつことを支持するように思われた。酒類の飲用者においては体重に有意差はなかった。コーヒー飲用は低体重群では42例中21例50%であるのに対し、正常体重群では1472例中639例43.4%であったが有意差はなかった。5杯以上と量の多い者は僅かであった。日本茶は、低体重群で42例中36例86%、に対し、正常体重群では1472例中978例66.4%で飲用群が高率である。

カフェインの摂取は習慣化しており、胎児に対し著しい悪影響はないと考えられているが、これらの共通の傾向は今後軽度の影響に関してもっと正確に検討する必要があることを示していた。

表 保健所における調査

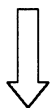
出生児体重	たばこ		酒類		コーヒー		茶		対象数	不明	総数
	9本以下	10本以上	時々	週3回以上	4杯以下	5杯以上	4杯以下	5杯以上			
2000>	0	1	0	0	1	0	1	0	2	12	14
2000-2499	3	3	5	1	20	0	31	4	40	31	71
2500-2999	31	18	27	17	171	0	215	39	380	135	515
3000-	46	27	74	49	464	4	636	88	1092	302	1394
計	80 (5.3%)	49 (3.2%)	106 (7.0%)	67 (4.4%)	656 (43.3%)	4 (0.3%)	883 (58.3%)	131 (8.7%)	1514	480	1994

2499 以下 = 4.26 %



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



目的および対象

一般の妊婦が、アルコール類、煙草、コーヒー、日本茶をどの程度摂取しているかを回顧的に調査した。調査の場所は都内の保健所における乳児健診であり、保健婦のききとりによった。低体重児については別に調査され、今回の集計は主として正常出生体重児の健康乳児の母親に対して行なわれたものを集計した。